

緑のセンターだより

No.274 令和4年1月1日発行

発行元：(公財)札幌市公園緑化協会 豊平公園緑のセンター

センリョウ

センリョウ科センリョウ属

Sarcandra glabra (Thunb.) Nakai(旧学名 *Choranthus glabra*)

センリョウは日本の中部以西から琉球諸島、他は台湾やマレーシアなど暖帯から熱帯まで分布する常緑小低木で、主に山林の半日陰に自生しています。種小名の *glabra* は「無毛の・平滑な」という意味があり、革質の光沢が美しい波状の鋸歯のある葉が特徴です。

6月頃に前年の育った枝の葉腋から伸びた新梢の先端に、2～3回分枝した穂状花序をつけ、黄緑色で非常に小さい花を咲かせます。花後には5～7mmほどの球形の果実ができて、11月中旬には真っ赤に熟します。同じ頃に赤く実るマンリョウとはとても似ていますが、花の構造は全く異なりヤブコウジ科に属します。北海道でみられるセンリョウ科の植物には早春の山野草として人気の「ヒトリシズカ」があります。

年始の祝い事に用いられる植物を「献歳(けんさい)植物」といい、その筆頭は誰もが良く知る「松・竹・梅」で他にマンリョウやフクジュソウなどと共にセンリョウも古くから献歳植物として親しまれてきました。名前の由来は諸説あり、同じく赤い実をつけるマンリョウ(万両)に対してセンリョウ(千両)と名付けた説、冬の荒涼とした季節に艶やかな葉の中心に美しい赤い実を連ねる様が値千両の意とした説などが伝えられています。センリョウはお正月の生け花として利用されることが多く、古くは1684年に出版された「六華正道集」に初めてセンリョウの名があげられ、この頃には生け花として利用されていた記録が残っています。江戸時代の書籍にはその実を珊瑚に例え、美しく貴重なものの意味で記述しているものも多く、宝物のようにたくさんの人に愛されていたことが伺えます。切り枝は非常に長持ちし、他の切り花が枯れても最後まで残ることも縁起の良さの一つとも言えます。

センリョウには他に黄色い実をつける「キミノセンリョウ (*Sarcandra glabra* (Thunb.) Nakai f. *flava* (Makino) Okuyama)」や珍しいものとして黒みがかった葉が特徴の「カラス葉センリョウ ‘ダークショコラ’」があります。カラス葉センリョウは新芽がチョコレートのような濃いブラウンで、葉の成長とともにグリーンがかるため、カラーリーフとしてシックな寄せ植えにも向いています。日陰に強く年中美しい常緑を保つので、縁起物の観葉植物として育ててみるのも面白いかもしれません。



赤と黄の実のセンリョウ



カラス葉センリョウ

参考文献 園芸植物大辞典(小学館)

四季の花辞典 増訂版(八坂書房)

植物和名-学名インデックス YList

1月の園芸作業

ここに記載した以外の作業も沢山ありますので
ご不明な点は緑の相談までお気軽にお問合せください。

緑の相談受付 10:00～12:00 13:00～16:00
★豊平公園 811-9370 月曜以外毎日
(月祝日の場合は、翌平日が休み)
※12/29～1/3は年末年始のため休館します。
※平岡樹芸センター・百合が原公園は冬期間相談受付していません。

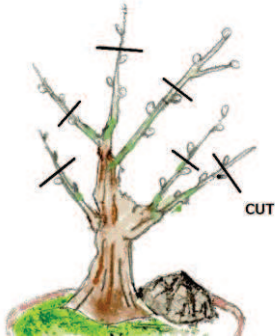
		作業時期			作業内容
		上旬	中旬	下旬	
屋外園芸	庭木・花木・果樹	雪害からの保護			冬囲いの補強と点検、樹冠や枝の雪落としを継続し、枝折れを防止する。(特にアカマツ、クロマツ) 道路際の生垣や庭周りの小低木は、除雪や落雪による損傷に注意。 枝折れなどが発生した際は、損傷部の修復を早めに行う。
	盆栽	花後管理			松竹梅の寄せ植えなどは、観賞後早めに5℃前後で管理するか、地面まで雪を掘って鉢のまま雪をかぶせておく。
室内園芸	鉢花	温度管理			シクラメン、アザレア、プリムラ類等は10℃～20℃の日当たりの良い窓辺に置いて管理する。鉢花は環境の変化を嫌うので、こまめな移動は避ける。
		水やり			日にちを決めず鉢の重さを確かめて与える。受け皿の残り水は捨てる。
		施肥			シクラメン、プリムラ類、ペゴニア類など開花を続ける鉢は薄めの液肥を与える。
		病虫害防除			ウドンコ病、灰色カビ病、カイガラムシ、ハダニ、アブラムシ等の早期発見と防除
	野菜	スプラウト作りを楽しむ			マメ類、ソバ、麦、大根など。
		保存野菜点検			先月に続き保存野菜類の状態点検。取り出した後の再格納はしっかりと。
	洋ラン	温度管理			シンビジウム、デンドロビウムなど比較的低温性の株は10～20℃の明るい場所。コチョウランなどは18～25℃で管理する。
		水やり			生育最低温度が保てる場合、鉢が軽くなり植込資材乾いたら充分与える。デンドロビウムに花芽がついている場合は、控えていた水やりを少しずつ増やす。
		施肥			成長を続ける種類は液肥を与え、シースや蕾の出ている株には与えない。
	多肉植物	温度管理			花後のシャコバサボテン・カランコエなどは、10℃位の明るい場所で管理
		水やり			アロエ、クラッスラ等は灌水を控える。冬型種(アエオニウム、リトープス等)は用土が乾いたら灌水
	観葉植物	水やり			鉢を持ちあげて軽く感じたら充分に灌水。
		施肥			成長を続ける鉢(ポトス、オリヅルランなど)は、月1～2回夏より薄い液肥を与える。成長しない鉢には与えない。
		病虫害防除			カイガラムシ、ハダニ、アブラムシ等の発生に注意。早期発見、早期防除が肝要



Q 正月に飾った梅は、花が終わった後、どのように管理すればよいのでしょうか？

A 花が終わった梅は、そのまま室内に置くと新芽が出てきますが、日照不足のため徒長して樹勢が衰え、翌年の開花が難しくなります。花が終わった梅は、以下のように管理しましょう。

花柄摘み	花弁が落ちても雄しべや子房が残ります。結実を避けるため早めに花柄を取り除きます。
整枝・剪定	開花枝は2～3芽を残して外芽の上で剪定し、枯れ枝や混みあう枝を除去して樹形を整えます。
置き場所	積雪下の地表面は0℃前後です。雪の中に地面まで穴を掘り鉢を置きます。柔らかい雪で隙間なく穴を埋め、春の雪解けまで積雪下で越冬させます。庭のない場合は大きめの発泡スチロールの箱などに入れて雪で覆って置く方法もあります。
植え替え	春、発芽前に赤玉小粒を主体に、腐葉土などを混ぜて植え替えしましょう。※松竹梅の寄せ植えは、寄せ植えのまま積雪下において、春に植物を別々にしてそれぞれの植物にあった用土で植え替えしましょう。



展示会・開花情報

(2022年1月～2月)



〒062-0905
豊平区豊平5条13丁目
TEL 011-811-6568
地下鉄東豊線
「豊平公園」駅下車
1番出口徒歩1分

ドンベアの花



ドンベア・ワリッキー



ドンベア・ワリッキーの蕾

緑のセンターアトリウム2階では、今年もドンベア・ワリッキーの咲く季節となりました。ライムグリーンの蕾がピンク色の手毬のように花開き、蜜の甘い香りが漂います。

今年は昨年より開花が早く12月下旬より咲き始めています。1月中旬頃には満開の姿をご覧いただけるかもしれません。

展示会情報

カラーリーフ展
2/1 (火) ～2/13 (日)



百合が原公園

〒002-8082
北区百合が原公園210
TEL 011-772-3511
JR学園都市線
「百合が原」駅下車
徒歩7～10分

新たな年の始まりに

百合が原緑のセンターでは、縁起物として正月に飾られるウメを、この時期に花開くよう鉢物で展示します。また、長期間美しい花色や花姿が楽しめる大株のシンビジウムは、大きな花を多数つけて豪華に咲き誇り、柑橘系植物は木に実り日々色づいていく様を間近でご覧いただけます。

新たな年の始まりに、色彩豊かな植物たちが百合が原緑のセンターを飾ります。

展示会情報

市民ラン展
～市民参加のランの展示会～
1/18 (火) ～1/23 (日)
※最終日は15時まで

福寿草と雪割草展
～春を告げる雪国の妖精たち～
1/25 (火) ～2/13 (日)



ウメ'大盆'



シンビジウム・トラシアナム

イベント情報（1月～2月）



豊平公園緑のセンター

☎ (011) 811-6568
<https://www.sapporo-park.or.jp/toyohira/>

【園芸教室】	開催日	時間	教材費	定員	申込開始
冬の鉢花の病虫害防除	1月22日(土)	13:30～	200円	20名	1/12(水)～
花の種まき実践教室	2月13日(日)	10:00～	1500円	20名	1/12(水)～



百合が原公園

☎ (011) 772-3511
<https://yuri-park.jp/>

【講習会】	開催日	時間	教材費	定員	申込開始
キャンドルづくり	1月15日(土)	14:45～16:15	330円	定員のため締め切り	
洋ランの育て方	1月23日(日)	13:00～14:30	130円	20名	1/12(水)～
【イベント】	開催日	時間	場所	参加費	申込不要
冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう！2022	1月15日(土)	14:00～16:00	緑のセンター前	無料	
スノーキャンドル製作					
スノーキャンドルの点灯		16:30～17:30			

花の種まき実践教室 in 豊平公園緑のセンター



緑の相談専門の講師をお迎えし、花の種まきを詳しくレクチャーいたします。

今回はサルビアとキンギョソウの種まきを実践します。春が待ち遠しくなる講座です。